

平成21年度「食育推進ネットワークやまなし交流会」の概要

1. 日 時：平成22年2月23日（火） 13：30～16：00

2. 場 所：山梨農政事務所 第一会議室

3. 出席者：食育推進ネットワークやまなし参加者等 19名
山梨県
山梨農政事務所長、消費・安全部長、消費生活課長ほか

4. 内 容
講 演

「大泉 風のがっこう」、NPO法人「畑の教室」の活動について

「大泉 風のがっこう」、NPO法人「畑の教室」代表 白石 好孝 氏
意見交換・交流会

5. 意見交換及び質疑応答の概要

参加者： 先ほどの講演の中で、農業体験の参加者は40～50代が50%を占めているとのことですが、体験後に就農する人はいるのでしょうか。

白石氏： ほとんどの参加者は趣味程度です。しかし、参加者のうち、毎年、1～2名は、実家に戻って農業を継いでいる人もいますが、新規に就農する人は少ないです。

都会の若い人の中には、アウトドア感覚で興味をもっている人はいますが、就農まで結びついていないのが現状です。

参加者： 山梨県には市民農園等の施設もあるし、耕作放棄地などもあります。それらを利用できるような何かアドバイスはありますか。

白石氏： 農業体験の需要はどこでも多いと思いますし、広げていくためには、受け皿としての魅力が必要だと思います。

まずは、体験をさせてみて、その後、興味のある人や、やる気のある人を新規就農に結び付けていければと思っています。

参加者： いろんな団体でそれぞれいろんな事業を取組んでいますが、単発であり、継続した取組になっていないのが現状です。継続していく

ために、リーダー等を育成するためにはどうすれば良いのでしょうか。

白石氏： 私が思うのは、3名やる気のある人が集まれば動くのではないかと思います。1名は農家、1名は役所、1名は地域の方。この方たちが連携して行えば良いと思います。

我々は、まず役所へ行ってアドバイスを受け、一緒に勉強会もやりました。始めるまでにいろんな準備で4年かかりました。みんなで知恵を出し合うことが大切だと思います。

参加者： 私たちは、中学生を対象に昔のおやつ作り（うすやき）をやったことがあります。特に男子生徒たちは興味を持って作っていましたし、先生にも好評でした。

今後も食育のために続けていければ良いと思っています。

参加者： 私たちは、学校や児童館などで食育の紙芝居をやっています。食べてから排泄するまでの過程を手作りの紙芝居で行っています。子供から出された質問を親子で考え、子供と一緒に考える機会が必要ではないかと思っています。

また、学校の先生が教えるだけでなく、地域の一般の人が先生になるのもいいことではないかと思っています。

参加者： 私たちは、米の消費拡大と地産地消を目的に料理教室をやっています。かわり巻きずし作りを行ってとても好評でした。

他にも、親子の料理教室を行い、今年は県南部の郷土食「みみ」を作りました。伝統食を伝えるのも大切だと思っています。

参加者： 山梨の地域特性に合った、地域の活性化に繋がるような取組みのモデルなどがあれば教えてほしい。

私たちも食育に関するいろいろな取組を行っていますが、食育に関心を持っていない方々もいるのは現状だと思っています。興味を持ってもらうためのアイデア等があれば教えてほしい。

白石氏： どう興味を持ってもらうかについてですが、1回来たお客について何かやってもらう。農業体験だけではなく、地域の観光・散策などもしてもらう。そして、また次も来たいと思ってもらう。

食育・教育ファームに関しては、目先のイベントにとらわれるのではなく、10年後、20年後を見据えた取組みが必要だと思います。今の子供たちが親になった時のことを想定した、遠回りではありますが、そういった考えで取組を行うことが大切だと思います。